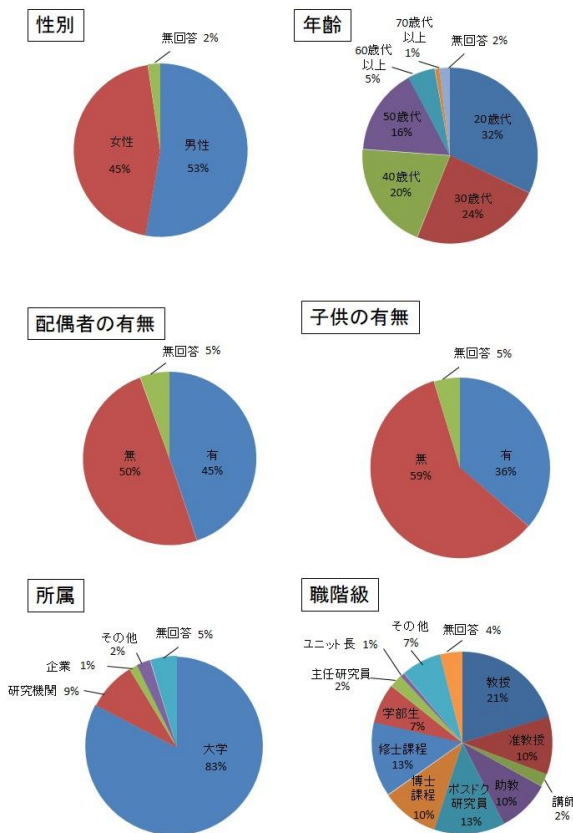


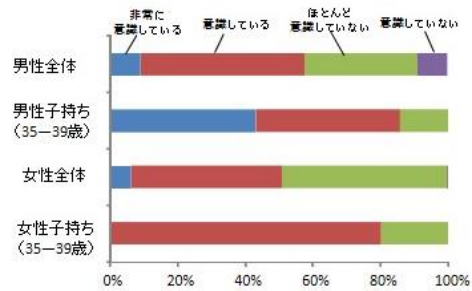
＜アンケート集計報告＞

第4回男女共同参画ランチョンセミナーの際に配布したアンケート用紙のうち、127件を回収し、集計を行いました。アンケート回答者の男女構成(男性53%、女性45%)、及び配偶者の有無(有45%、無50%)ともにほぼ半数の比率でした。年代では20歳代の参加が最も多く(32%)、「研究者流タイム・マネジメントを考える」というテーマに関して若い方にも興味を持っていただけたようです。職階級としては、教授の参加(21%)が最も多いことがわかりました。また、以前にも男女共同参画に関する集会に参加したことがある方が69%であり、例年よりも(第2回39%、第3回46%)興味を持ってリピートしてくださる方が増加していることがわかりました。

今回のランチョンセミナーでは、日本人(男性)の平均勤務時間は、10.5時間であり、日本よりも労働生産性が高いアメリカやフランス(平均勤務時間9時間)と比較して長いということが紹介されました。そこで、研究・勤務時間についてアンケートを行ったところ、平均して男性は11.4時間、女性は10.8時間であり、アメリカやフランスだけではなく日本の平均勤務時間よりも長いことから、研究の現場でも効率のよい働き方を見直す必要があることがわかりました。また、「これまでタイムマネジメントを意識して生活をしていましたか？」の設問に関しては、男女ともに約半数が「非常に意識している」、「意識している」との回答でした。また、35—39歳で子持ちの方は男女ともに研究・勤務時間が1-1.5時間程度短くなる傾向がありましたが、その反面、タイムマネジメントに対する意識が高まっていることもわかりました。



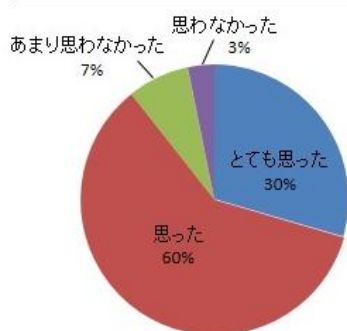
タイムマネジメントを意識していましたか？



また、「今回のランチョンセミナーに参加して、タイムマネジメントを見つめ直そうと思いましたが？」という設問に関して、「とても思った」、「思った」という回答が90%であったことから、タイムマネジメントを考える良いきっかけになったと思われます。実際、セミナー内容に対する感想においても、タイムマネジメントを積極的に取り入れてほしいとのコメントが多く

寄せられました。ただ、今回も含めこれまでのランチョンセミナーで講演された方は教員がほとんどであり、ポストドクとは事情が異なるのではという意見もあったため、今後ポストドクの方の講演も含め、検討していきたいと思います。

タイムマネジメントを見つめ直そうとおもいましたか？



セミナー内容に関する感想（抜粋）

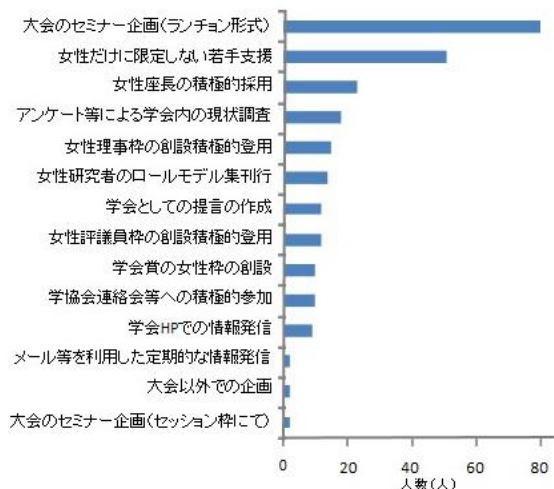
如何に効率化するか、メリハリをつけるということをよく考えたいと思った。家事サービスの重要性を感じた。/タイムマネジメントを意識しなければならないなど感じた。実際に夫婦で働いてサポートしあっている実例を知れたことはとても今後の参考になった/何となく長い時間ラボにすることが価値があるように思っていた。また、何となく家に居づらいということもある。/パネリストに方のタイムマネジメントの工夫はとても参考になった。日本とノルウェーとの違いについても驚きました。/早く自宅に帰って子供の世話をしながら論文原稿を書いたり、最新文献に目を通そうと思った。/家族との打ち合わせを第一に、時間の有効利用を極限まで考えるべきだと思った。/学生のうちはとても融通が利くマネジメントができるのだなと思った。本日のお話を参考に、今後のライフワークを考えていきたい。学生だからこそ今のうちにしかできない生産性の上げ方をしたい。/もっと早く帰れるように頑張らないといけないなと思った。早く仕事を済まして帰れば、育児とかがなくても好きなことができる時間ができることで、精神的に満たされて仕事に打ちこめていいなと思いました。/保育園以上（小学校）になると制度上の点から育児が大変になりそうな印象を受けました。TV会議の活用が鍵と感じました。/パーマメントの職を得ている人とポストドクでは経済的にも今後のキャリア形成でも事情は異なると思います。ポストドクの立場での経験談や支援のありかたの検討が必要ではないでしょうか。

また、今後の植物学会における男女共同参画の活動に期待することとして、「大会の

セミナー企画（ランチョン形式にて）」が80名で最も多く、現状どおりの活動を今後も続けていくことが重要であることが分かりました。今後セミナーで取り上げるテーマにつきましても、アンケートでのご意見を参考にとりいれていきたいと思います。また、前回のアンケートと同様、2番目に多かった女性だけに限定しない若手支援

(51名)につきましては、学会内での若手支援全般についての要望が高いことを再度理事会に報告させていただきます。3番目に多い女性座長の積極的登用(23名)については、この数年間大会本部のご協力により実現することができています。次年度の学会につきましても、大会本部への働きかけを継続していきます。

今後学会に期待する活動は？



男女共同参画委員会では、今後も学会委員の要望にあった活動を続けていきたいと思ひます。ご意見などを委員長(永田典子: n-nagata@fc.jwu.ac.jp)宛てお送りいただければ幸いです。今後ともよろしくお願ひ致します。

アンケート取りまとめ・佐々木成江(名大)